

# 12月の星空



12月下旬の午後8時頃の星空です。月や木星は12月19日の位置を表示しています。実際の空を見ながら星を探すときは見る方角を下にして見ます。

山陰の冬は、低くたれ込めた雲から、雪が落ちてくる・・・ちょっとさみしいイメージありますね。

それでも、時として素晴らしい天文現象をみることができます。先般の「ふたご座流星群」では、多くの流れ星を観られた方もおられるのではないのでしょうか。

12月の星空は・・・秋の星座が西に傾きかけた頃、太陽系一の大惑星「木星」が、冬の華やかな星達を引き連れて、東の空の高みに昇ってきます。それはあたかも冬の星座達が足並みを揃えて行進しているようにも見えます。

厳しい寒さが続くこの季節、雲が切れた夜は少しか空を見上げてはいかがでしょうか。



### ★今夜は月齢5.8

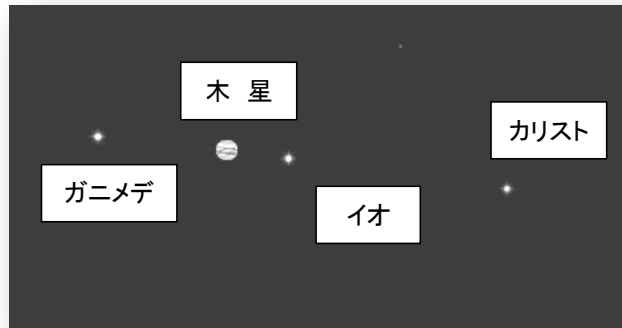
今夜の月は月齢5.8で、明日20日に半月(上弦)になります。月は毎日30分あまり遅れて昇り、欠ける形も少しずつ変化します。ちなみに、12月28日(金)が満月です。

肉眼、双眼鏡、天体望遠鏡、どんな方法でも楽しめる、地球に一番近い天体です。

### ★今夜の木星

太陽系最大の惑星である木星が見頃です。小型の天体望遠鏡でも表面の模様や4大衛星(ガリレオ衛星)を楽しめます。

※4大衛星のひとつ「エウロパ」は午後8時頃に木星の裏側から出現します。



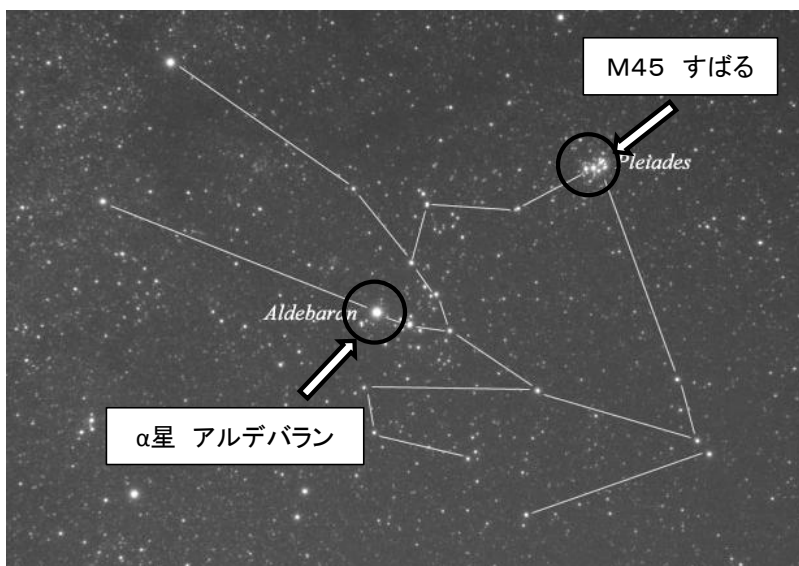
※月も木星も、実際に天体望遠鏡で見ると、上下左右がさかさまに見えます。

### おうし座

おうし座は、大きな角を振りかざした牡牛(おうし)の上半身の姿を表した星座です。ギリシャ神話では、大神ゼウスがフェニキア王の一人娘エウロパをさらうときに変身した姿と言われています。

M45(プレアデス星団)は、おうし座の散開星団ですが、「すばる」という立派な和名を持っています。肉眼では5~6個の星が集まっているように見えますが、双眼鏡や天体望遠鏡では、数十の星が美しい姿を見せてくれます。平安期の歌人清少納言も『枕草子』のなかで「星はすばるひこぼしゆふづつよばひ星すこしをかし尾だになからましかば、まいて」(星はすばるが何と言っても一番である...)と書いています。

また、おうし座のα星はアルデバラン(したがうもの)という名前がついていますが、これはM45に続いて昇ってくるからです。



M45の星々は皆青白い若い星です。空の暗い所では、星団をうっすら覆う青いガス星雲も見ることができます。



### 次回の天文教室は

日時 新年1月16日(水) 19時から20時(受付18時30分から)  
観察対象 月、木星、オリオン座の大星雲(M42)  
来年もよろしくお願ひしますm(\_)\_m

